

< 陸運業界で進む環境対策 >

自動車は、私たちの生活を豊かなものにするために、もはやなくてはならないものになっています。しかし、その自動車が出す排気ガスに含まれる二酸化炭素 (CO₂)・窒素酸化物 (NO_x)・硫黄酸化物 (SO_x) が、地球の温暖化や酸性雨の原因となって、地球環境に著しい影響を与えているのです。

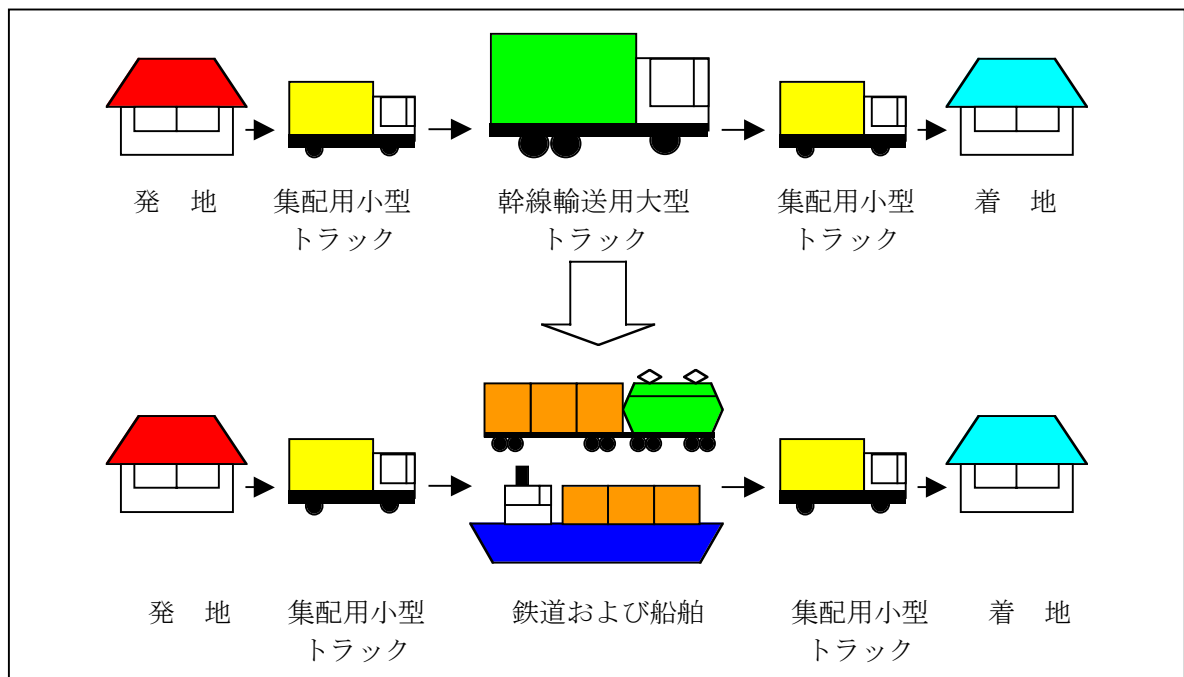
そうした意味では、毎日のように自動車を走らせている陸運業界は、企業活動そのものが環境に影響を与えていることとなります。だからこそ、現在真剣に地道な取り組みを行っています。

① 低公害車の積極的な導入

主に小型トラックについて、メタノール車・天然ガス (CNG) 車・電気自動車・ハイブリッド車・LPG (液化石油ガス) 車などの低公害車の導入が積極的に行われています。

② モーダルシフト

従来の、大型トラックによる幹線輸送を、大量輸送機関である鉄道や船舶に転換し、トラックとの複合一貫輸送を行うことにより、消費エネルギーを抑え、温室効果ガスの発生を削減しています。



③ アイドリング・ストップなどエコドライブの徹底

陸運業界で最も身近にできる温室効果ガスの削減方法は、エコドライブの徹底と言われており、現在、各社で積極的にドライバー教育が行われています。

エコドライブの例

- ・ アイドリング・ストップ（駐車・停車中にはエンジンを切る）
 - ・ 空ぶかしをしない
 - ・ 急発進・急停止をしない
 - ・ 経済速度と等速運転（無用な加速・減速をしない）の実施
 - ・ 点検・整備の定期的実施
 - ・ タイヤの適性空気圧の維持
- な　　ど

参考：アイドリング・ストップの効果（環境省資料より）

車　　種	アイドリング1時間あたり 燃料消費量（単位：リットル）	アイドリング1時間あたり CO2排出量（炭素換算） （単位：グラム）
乗用車（ガソリン車）	0.8	514
小型トラック（2t積ディーゼル車）	0.5～0.7	360～505
中型トラック（4t積ディーゼル車）	0.7～1.0	505～721
大型トラック（10t積ディーゼル車）	1.3～1.8	937～1,298

④ そ の 他

トラック等に塗られている塗装は、自社のトラックであることを認識させたり、広告的な役割を果たしていますが、塗られている「色」が太陽光線を反射するか吸収するかによって、車内や荷室の温度が変化することが実験によって判ってきました。ある会社の実験によれば、トラックの屋根の塗色をグリーンからクリーム色に変更すると、荷室温度は最大3.8℃下がることが判り、これは、1台あたり7分間のアイドリングと、105ccの燃料削減につながるようになるということです。

このような地道な努力の積み重ねを経て、陸運業界も環境に与える影響を低減させています。